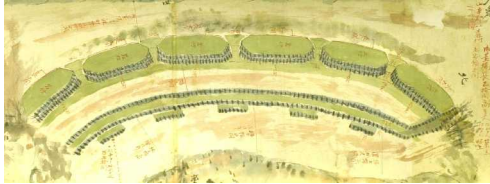


# 企画展「秋田藩の海防警備展」開催迫る

# 古文書倶楽部

「海岸絵図」(県C-1598)  
縦一メートル・横五メートルの巨大な絵  
図です。まさに圧巻!



「山本郡八森村絵図」(県C-132)

「男鹿半嶋図」(地7)  
幅4メートルの絵巻です。見応え十分!



【発行】

秋田県公文書館

古文書班

2006.8

第9号

秋田県公文書館では来る八月二十五日(金)から、企画展「秋田藩の海防警備展」を開催します。文化四年(一八〇七)の箱館出兵、安政年間の蝦夷地警備、領内での台場築造等に関する絵図や古文書の他、嘉永二丁四年(一八四九〜五一)に作成した巨大な「海岸絵図」を展示します。

この展示で紹介する絵図や古文書は、江戸時代の後期、ロシアの蝦夷地進出に危機感を募らせた幕府が、秋田藩に対ロシア戦の先兵を命じ、それに従事した秋田藩の歴史を物語るものです。

天下泰平を揺るがすロシアの脅威を感じた秋田の侍が、何を思い津軽海峡を渡り、北の海の守りに就いたのか？

ロシア船の進攻に対抗すべく秋田藩が領内に築造した台場(砲台)はどのようなものであったのか？

そして藩当局は海防警備にどのようなビジョンを持っていたのか？  
こうした問題意識を思い描くことのできる展示を目指します。

どうぞお楽しみに！

期 間 前期展示 八月二十五日(金)〜九月十九日(火)

後期展示 十月二十四日(火)〜十一月十二日(日)

\* 前期展示と後期展示は、展示する史料が異なります。

お見のがしないうち御注意ください。

時 間 午前十時〜午後五時

場 所 二階特別展示室

展示報告会 第一回歴史講座「秋田藩の海防警備展」を語る

九月九日(土)午後一時半〜三時

\* 応募方法は講座案内をご覧ください。

# 暑い夏に怪談話をどうぞー「久保田城下百物語」ー



「久保田城下百物語」(A388-1)の作者や作成年代は不明です。

暑い夏に秋田藩士が寄り集まって怪談話に興じるシーンからこの物語は始まり、最後に怪談話に登場した幽霊・妖怪が秋田藩士を襲いかかろうと気炎を上げるシーンで終わっています。

これを見ると、たとえ冷房の設定温度が高くても十分背筋が涼しくなります。确实です。

## 古文書こぼれ話

湊騒擾のカギを握るのは「鍵」か

「巳年のケカチ」の年である天保四年(一八三三)、土崎湊で初の本格的な都市騒擾である「湊騒擾」が起きました。湊騒擾の様子は藩御用聞町人で廻船問屋の間杉辰良による「天保録」、町奉行橋本秀美が記す「八丁夜話」、大番頭黒沢道興の「大御番勤中日記」、明徳館文学による「御学館文学日記」等から分かりますが、それぞれの立場により事実認識が異なります。黒沢は「米食らい」する暴徒と記し、橋本は「統制のとれた不気味な騒擾」と記して興味をそそります。

この騒擾は、五、六百人の御高方仲仕が豪家の米改めを行うことから始まり、最終的に千五百人に増えた人たちが貯蔵米の帳付けを行いました。その目的は豪家の貯蔵米を低廉な価格で販売させることにありました。

しかし私たちがイメージする百姓一揆や打ち毀しとは異なり、湊騒擾では町人が打ち毀しの武器を一切持たず、米改めに使う「鍵」のみを持っていたのです。実はこの「鍵」こそが湊騒擾の特質を読み解くカギなのです。

さて真相如何…。

(渡部紘一)